



CONTENTS

- 巻頭言. 1
- 2023年度秋季大会参加記. 3
- 2023年秋季大会に参加してみても/報告してみても. 11
- 2024年度春季大会のお知らせ. 12
- 定例研究会の開催状況について. 13
- 各種申請者一覧. 14

巻頭言 2024年台湾総統・立法委員選挙：中台関係はどうか？

東京大学 松田 康博

2024年1月13日に行われた台湾の総統・立法委員選挙は、国際社会の注目を浴びるなか、与党・民主進歩党（民進党）の賴清徳候補が当選した。今回は有力候補が3名いたため、比較多数の40.05%の得票率に止まり、議会に相当する立法院は与党が過半数を割り、「弱い民進党政権」となる見込みだ。

国際社会が注目したのは、ロシア・ウクライナ戦争や中東紛争に次いで、台湾海峡でも戦争が起きないか、という懸念のためである。

筆者は、1995年以来30年近く、波状的に「中国は台湾を攻めますか」、「日本はどうするのですか」という質問を浴び続けてきた。中国は台湾に対する武力行使を否定しないどころか、繰り返し明言してきたし、台湾の独立志向やアメリカの対台湾支援姿勢も強まっている。何よりも中国が軍事大国化し、習近平という野心的政治家が独裁を強化している。

ただし、そのことは中国が政策として武力統一を推進していることを必ずしも意味しない。中国の対台湾政策は「平和統一」政策であり、あくまで台湾独立や（主として米国を指す）外国勢力による介入などを抑止するために武力行使を留保しているに過ぎない。

そもそもなぜ中国は「解放」をやめて「平和統一」政策に転換してのか。それは、ほぼ純粋に、中国自身の平和的發展のためである（＝台湾のためではない）。台湾周辺地域が戦場になり、安全な航行がで

きないならば、中国は発展できない。だから鄧小平は、改革開放政策、米中国交正常化、対台湾「平和統一」政策、香港の「一国二制度政策」をパッケージとして推進したのである。

言い換えるなら、中国による対台湾武力行使など、指導者の一存でとれる簡単な選択肢ではない。それは、国家の命運をかける大ギャンブルである。コストとリスクが極めて高い上に、必ずしも成功するとは限らないからである。

さて、今回の選挙結果を受けて、中国はどのような対応をするだろうか。習近平は「台湾の愛国統一勢力を発展させ、大きくする」と発言している。国務院台湾事務辦公室の報道官は、民進党の得票が減ったことに対して「民進党は必ずしも台湾島内の主流の民意を代表していない」と語った。

つまり、中国は2024年に民進党政権を引きずり下ろすのに失敗したので、次の2028年に再度挑戦するはずである。独立派勢力が大多数になったと総括するなら武力行使の選択肢が大きくなるかもしれないが、独立派勢力が減ったのだから、武力行使などなくて済むという論理が見え隠れしている。

中国は必要に応じて、軍事的、外交的、経済的、社会的な威嚇、威圧をかけ続けるだろう。その間、中国は賴政権の情報を獲得し、可能な限り賴政権をコントロールするためのバックドアチャンネルを構築しようとする。同時に、野党勢力を抱き込むための

統一戦線工作や、人々の考え方に影響を与えることを目的とした認知戦も強化するだろう。そして米国の介入を抑止し、台湾を屈服させるために軍拡を継続するはずだ。

頼政権は、内政面で多くの課題を抱えるなかで、野党と中国からの挑戦を受け続け、苦難の道を歩むことになる。「台湾独立」など、口にする余裕さえ

ないはずだ。

こうなれば、中国はますます武力行使をしなくて済む。「独立したがつている台湾」と「武力統一したがつている中国」という単純な構図はほとんど当てはまらない。地域の現実をよく見ることから議論を始めたいものである。



『アジア政経学会ニューズレター』 No.61 2024年3月25日 発行

発行人：清水 一史

編集人：遠藤 環

●(一財) アジア政経学会事務局

〒171-0031東京都豊島区目白1-5-1

学習院大学 法学部

江藤名保子研究室 気付

E-mail : jaas-info@npo-ochanomizu.org

URL : <https://www.jaas.or.jp>

印刷：ヨシミ工業株式会社

住所：〒804-0094

北九州市戸畑区天神1丁目13番5号